

09



Our Motoring Story

My Car Report



UCGに携わる様々な人たちのプライベートカーライフを大公開。
1台に長く愛情を注ぐ人、次々に買い換えてフィールの違いを味わう人。
愛車との付き合い方は千差万別なれど、それぞれみんな楽しんでいるようです。

02 1989 Porsche 911 Carrera Clubsport
加納亨介／編集部

03 1999 Alfa Romeo 156 Twinspark Selespeed
佐藤貴昭／編集部

05 1967 VW Type II Westfalia
中嶋光貴／広告担当

09 1999 Lancia Y 1.2 16V LX
山田舞／編集部

10 1992 Lancia Thema 8.32
野田義彦／編集部

11 1992 Porsche 911 Turbo
中嶋光貴／広告担当

12 1995 Volkswagen Vanagon
野田義彦／編集部



02



09

1999 Lancia Y 1.2 16V LX

1999年式 ランチア イプシロン1.2 16V LX
走行距離:93,900km
2006年10月購入(価格:85万円)

健気、でもどこか病弱

GWと呼ばれる、ひどく渋滞を生み出す数日間には非常につまらない。それでも連休となるとどこかへ行きたい衝動に駆られて、目的地を木曾福島に決める。馬籠宿や妻籠宿も魅力だったが、木曾の山深い溪谷美や景勝地「木曾八景」を訪れてみたかったからだ。

深夜1時過ぎに出発したお陰で渋滞を知らずにひた走り、中央道・諏訪湖サービスエリアに立ち寄ったころには朝の4時を回っていた。車中で仮眠をとって再出発。伊那インターで下り権兵衛トンネルを抜けると、雨のせいもあったが霧深い湿気を含んだ木の薫りが立ちこめる。その日は終日景勝地を求めて木曾を走り回り、標高1916mのしらびそ高原で目前に広がる南アルプスをはじめ、中央・北アルプスの360度絶景パノラマに圧倒された。

と、どこへでも健気に旅をしてくれる先代イプ

シロンがいながら、第2特集のために集めたモデルに1台の気になるクルマがあった。視線の先にあるのは現行イプシロン。P72・73のトビラ撮影のためにちょっと動かしたただけだが、先代よりボリュームアップしているだけあって少々重い。サイズを比較すれば一目瞭然だが、全長×全幅×全高=87×30×95mm、車重は240kg成長した。もちろんそれに伴って126ccの排気量アップ、9ps/1.5mkgのパワー向上が図られている。内装の細部にも滑らかな円弧に拘り尽くしたエンリコ・ファミアのデザインはかなり薄れて、内外装のカラーは上品で深みがあるけれど、先代の潤沢な選択肢から較べれば随分大人しくなった……。などと並べたところで、新型が退化するはずもなく充分優雅で魅力的だが、個人的な嗜好はやはり先代イプシロンに軍配が上がる。

だから、ついに動かなくなった助手席側のパワーウィンドー不動のために3か月間で2度も工場へ連れて行くなかって、煩わしくありません、ちっとも。
Text:山田舞



上村・しらびそ高原。写真奥に鎮座するのはSKWのロゴを持つ森林鉄道。酒井工作所5t機関車と客車、運材台車が保存されている。ちなみにこのときから動きが鈍かった助手席側パワーウィンドーは帰宅直後不動に。